大学･高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F135210110089	設置等組織名	工学部医薬工学科
大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学	設置区分	公立		
学校種	大学	都道府県	山口	事業計画名	工学部医薬工学科の新設

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	2－① 令和５年６月 新教室棟の実施設計の実施 2－② 令和５年９月 新教室棟の建設工事の着工	2－① 令和５年６月 新教室棟の実施設計の実施 2－② 令和５年９月 新教室棟の建設工事の着工	令和5年度自己評価：【２】計画を十分には実施していない。 建物基礎の支持層が予想より深かったこと等が原因で、工事期間の延長が必要となった。全工程の見直しにより完成期日を7ヶ月延伸し令和7年2月末までに工事完了し、令和7年4月1日に供用開始の予定である。
令和6年度	3－① 令和６年７月 新教室棟の建設工事の完了（2年目） 3－② 令和６年８月 新教室棟の使用開始（2年目） 3－③ 令和７年３月 分光光度計の購入 3－④ 令和７年３月 マイクロ冷却遠心機の購入 3－⑤ 令和７年３月 薬用冷凍冷蔵庫の購入 3－⑥ 令和７年３月 イメージングシステムの購入 3－⑦ 令和７年３月 恒温振とう培養機の購入 3－⑧ 令和７年３月 超低温フリーザーの購入 3－⑨ 令和７年３月 トランスイルミネーターの購入 3－⑩ 令和７年３月 大型棚型凍結乾燥機一式の購入 3－⑪ 令和７年３月 レトルト食品用オートクレーブ一式の購入 3－⑫ 令和７年３月 プログラムフリーザー一式の購入 3－⑬ 令和７年３月 バイオマルチクーラーの購入 3－⑭ 令和７年３月 ハンドホモジナイザーの購入 3－⑮ 令和７年３月 デュヌイ表面張力試験機の購入 3－⑯ 令和７年３月 大腸菌培地オートクレーブの購入 3－⑰ 令和７年３月 乾熱滅菌器の購入 3－⑱ 令和７年３月 ガスクロマトグラフィーの購入 承認日：令和６年９月５日（支学機構助第２５号）	3－① 令和７年３月 新教室棟の建設工事の完了 3－② 令和７年３月 新教室棟の使用開始 3－③ 令和７年２月 分光光度計の購入 3－④ 令和７年２月 マイクロ冷却遠心機の購入 3－⑤ 令和７年２月 薬用冷凍冷蔵庫の購入 3－⑥ 令和６年１２月 イメージングシステムの購入 3－⑦ 令和７年３月 恒温振とう培養機の購入 3－⑧ 令和７年２月 超低温フリーザーの購入 3－⑨ 令和７年３月 トランスイルミネーターの購入 3－⑩ 令和７年１月 大型棚型凍結乾燥機一式の購入 3－⑪ 他機関の機器を代用することとし、購入を取り止め 3－⑫ 令和７年２月 プログラムフリーザー一式の購入 3－⑬ 令和６年１２月 バイオマルチクーラーの購入 3－⑭ 令和７年２月 ハンドホモジナイザーの購入 3－⑮ 令和７年２月 デュヌイ表面張力試験機の購入 3－⑯ 令和７年３月 大腸菌培地オートクレーブの購入 3－⑰ 令和７年１月 乾熱滅菌器の購入 3－⑱ 令和６年１２月 ガスクロマトグラフィーの購入	令和6年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	3－⑱ 令和７年４月 授業開始 3－⑲ 令和７年６月 学生募集 3－⑳ 令和７年９月 ３ポリシーの点検 3－㉑ 令和７年12月 シラバスの作成、見直し 承認日：令和８年３月３０日（支学機構助第１８２号）	3－⑱ 令和７年４月 授業開始 3－⑲ 令和７年６月 学生募集 3－⑳ 令和７年９月 ３ポリシーの点検 3－㉑ 令和７年12月 シラバスの作成、見直し	令和7年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	3－㉒ 令和８年４月 授業開始 3－㉓ 令和８年６月 学生募集 3－㉔ 令和８年９月 ３ポリシーの点検 3－㉕ 令和８年12月 シラバスの作成、見直し 承認日：令和８年３月３０日（支学機構助第１８２号）		令和8年度自己評価：リストから選択してください。
令和9年度	3－㉖ 令和９年４月 授業開始 3－㉗ 令和９年６月 学生募集 3－㉘ 令和９年９月 ３ポリシーの点検 3－㉙ 令和９年12月 シラバスの作成、見直し 承認日：令和８年３月３０日（支学機構助第１８２号）		令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和５年7月 文科省への届出	令和５年7月 工学部医薬工学科（入学定員60名、学位分野：工学） 文科省への届出	
定員減又は 学部等の廃止		令和５年８月 工学部応用化学科（入学定員20名減員（80名→60名）、学位分野：工学）に係る届出提出	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。☐

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
■ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
医薬工学科では、山口県製薬工業協会に加盟する企業や県・市と連携し、講義にケーススタディ演習を組み入れたアクティブラーニングを主体に授業を設計し、学生同士が十分な時間をかけてグループ単位で議論に参加する共創型の教育を行う。これらの課題解決型の実証教育(PBL)等を通じ、さまざまな知の集い、新たな価値創出の体験を重ねることにより、学生があらゆる「知」を動員して実社会でも通用する実践力を身につける。例えば、GMPに適合した製造や品質確保を目的としたPBL(生産者側の立場)、GMPを逸脱した場合の解決を課題としたPBL(査察自治体の立場）、医薬品や医療機器の品質及び安全性の向上に寄与することを目的としたPBL(生産者側の立場)等を行う。また、本学は、MOTに強みを持つ東京理科大学、インベストメント・マネジメント社、イノベーション・キャピタル社の4者で、学生の起業家教育とスタートアップ支援に関する連携協定を締結することで合意しており、アントレプレナーシップを醸成する教育、知財教育、新しい技術が持つ可能性を見極めて事業に結びつけることで経済的価値を創出する技術経営教育に取り組む。さらに、海外大学との連携を進め、交換留学プログラムを整備する。	課題解決型の実証教育(PBL)の一環として、山口県、山口県製薬工業協会の産学官が連携し、医薬品の製造管理、品質管理、GMPの3原則等を体系的に学修する学部横断型教育プログラム「山口県GMPカレッジ」を実施した。令和７年度は７回（うち医薬工学科の学生が参加したのは３回）開催し、計361名（うち医薬工学科の学生109名）の学生が参加した。これに加え、山口県製薬工業協会加盟企業３社及び県薬務課・山陽小野田市と連携し、医薬品や化学薬品の研究開発、製造、管理及び試験などに従事している様々な職種の企業人が、その知識と実務経験に基づいた講義を行い医薬品工学と地域産業を学ぶ「医薬工学地域産業論」を開講した。 MOTに強みを持つ東京理科大学との連携については、学生の起業家教育、スタートアップ支援及びアントレプレナーシップ醸成の推進を目的とした連携協定（令和５年５月締結）に基づく取組みを推進した。具体的には、本学の技術シーズに係る市場価値評価を依頼したほか、大学発ベンチャー認定制度において、審査体制の強化のために東京理科大学イノベーション・キャピタル株式会社の専門家を外部委員として委嘱した。なお、令和7年度に、本学初となる大学発ベンチャー（AI分野）を１件認定した。また、広島大学PSI（Peace & Science Innovation Ecosystem）に参画し、中四国地域の大学等との連携強化を進めた。令和8年5月には、本学を会場として「PSI起業サポートセミナー」を開催し、地域におけるアントレプレナーシップ教育及びスタートアップ支援に関するネットワーク形成を推進した。 サンシャインコースト大学（豪州）との協定締結を見据え、令和7年11月、本学学長、国際交流センター長ほか関係者が同大を訪問し、会談を実施した。その後、まずは語学力養成として、豪州所在の語学学校との間で協力に関する覚書（MOU)を締結した。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
医薬工学科では、文系理系にとらわれないSTEAM教育により幅広い知識と能力を身につけるため、大学入学共通テストでは文・理の5教科7科目に「情報」を加え、個別学力試験では大学教育の基礎力となる思考力・判断力等を問う。また、工学系に女子が少ないことを配慮し、女性の活躍状況とキャリアアップ・デザインを可視化した広報を行うことにより、女子の進学意欲の向上を促す。さらに、女子枠入試の実施、女子寮の整備を行うとともに、保育所を設置して子育て中の女性も安心して学べる環境を整備する。デジタル時代の読み・書き・そろばんであるデータサイエンス、プログラミングの楽しさを学ぶ体験学習や、おくりび教室を、市内の小学生、中学生、高校生を対象に行い、未来のバイオDX産業人材を養成する。また、GMPの3原則を学ぶ「社会人GMP講座」、化粧品の知識を学ぶ「日本化粧品検定講座」等による「リカレント・リスキリング」を実施する他、独自入試を行うことで社会人学生の受入れを強化する。さらに、山口県が設置する海外拠点と連携し、山口県内企業の進出拠点が多い東南アジアを中心に、現地の生徒に本学科の魅力を伝え、留学を促す取組みを行うとともに、外国人留学生のための寮を整備し、日本語と日本文化を学習する科目も充実する。	医薬工学科では、令和8年度入試（令和7年度実施）において、化学を筆記試験とする学校推薦型選抜（定員30名、志願者数70名、志願倍率2.3倍）、共通テスト利用型の総合型選抜（定員5名、志願者数8名、1.6倍）、文系を含む６教科型及び４教科型の一般選抜前期日程（定員20名、志願者数79名、4倍）、４教科型の一般選抜公立大学中期日程（定員5名、同118名、23.6倍）を実施した。女子の進学意欲の向上支援のため、大学案内や大学HPへの掲載により、工学部の女子学生の在学中及び卒業後の活躍状況とキャリアアップ・デザインの可視化による広報とともに、学校推薦型選抜の女子枠の設置を行った（定員2名、志願者数47名、志願倍率23.5倍）。なお令和8年度入試より、女子枠で不合格になった場合、県内志願者は地域枠、県外志願者は全国枠で再度合否判定をするA、スライド方式を導入した。また、山陽小野田市内の複合施設「A2ウエア」に女子寮を整備し、令和６年４月よりDR用を開始した（本学科の女子学生５名が入居）。さらに、子育て中の女性も安心して学べる環境を整備するため、学生や教職員を対象として、育児サポートサービスや病児保育施設利用料を助成する制度を構築した。小中高の児童生徒向けには、データサイエンス、プログラミングの楽しさを学ぶ体験学習として、本学主催の市民体験型イベント「大学開放デー」において、タブレット等を用いたプログラミング体験学習、身の回りにある食品の化学分析等を実施するとともに、「化粧品や健康食品でQOLを高める」といったテーマで教養講座を開催し、一般市民向けに対する教養・啓蒙活動を行った。また、未来のバイオ医薬・バイオDX産業等の人材養成のため、市内小学校に出張し「おくりび教室」を6回実施した（297名参加）。また、令和7年11月に山口県GMPカレッジにおいて、PMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）の招へい講師による講演を実施するとともに、山口県製薬工業協会会員（所属企業）も講演を聴講できる体制整備を行うなど、社会人に対するリカレント・リスキリングを進めている。さらに、外国人留学生入試の出願資格を一定の日本語能力を有する者とし、留学を促す取組みとして外国人留学生 大学・専門学校進学フェアへの参加、外国人留学生科目「日本語１・２」及び「日本事情１・２」の設置、読解、ディスカッション、作文等による日本語運用能力を総合的向上、自国と他国との比較の視点からの日本の文化や社会に対する理解深化を目標とした授業を実施している。	

様式１－３

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況

大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	工学部医薬工学科（工学関係）

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定・届出	開設																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人		60	60	60															
		編入学定員	人		0	0	0															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	60	60	60															
		入学者数	人	-	62	65	61															
		女子学生数	人	-	46	49	43															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	1	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	60	60	60															
		入学者数(B)	人	-	62	65	61															
		女子学生数	人	-	46	49	43															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	1	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.03	1.08	1.02															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	60	120	180															
		編入学定員	人	-	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	-	62	127	188															
		編入学者数	人	-	0	0	1															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.03	1.06	1.04															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	5	6	18															
		授業科目の単位数	単位	-	4	28	65															

大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	260	300	300	300															
		入学者数	人	285	317	331	317															
		女子学生数	人	54	89	103	103															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	1	2	5	5															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	260	300	300	300															
		入学者数(B)	人	285	317	331	317															
		女子学生数	人	54	89	103	103															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	1	2	5	5															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.10	1.06	1.10	1.06															
	収容定員等	収容定員(C)	人	860	960	1,060	1,160															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	922	1,039	1,168	1,264															
		編入学者数	人	6	4	4	5															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.07	1.08	1.10	1.09															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	179	178	199																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	14	15	17																
		授業科目の単位数	単位	141	166	164																

大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	380	420	420	420															
		入学者数	人	407	449	450	443															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	380	420	420	420															
		入学者数(B)	人	407	449	450	443															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.07	1.07	1.07	1.05															
	収容定員等	収容定員(C)	人	1580	1640	1780	1880															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	1636	1774	1889	1997															
		編入学者数	人	6	4	4	5															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	1.08	1.06	1.06															

４.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況		申請−5年	申請−4年	申請−3年	申請−2年	申請−1年	選定	開設												
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	126,717	119,023	172,013	141,432	183,214	902,661	702,969	188,232											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金	千円	146,721
本事業による助成金の額(F)	千円	740,000
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	165,221

特記事項

編入学定員の0人とは若干名を意味している。